

今年4月に本校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語、数学の2教科のテストと同時に、家庭生活、学校生活に関する調査も実施されています。生活習慣や学習の様子など、本校の3年生の状況をお伝えします。

### 総合結果（国語・数学）

全体の平均正答率は国語、数学ともに全国平均より少し低めという結果でした。国語では思考・判断・表現の問題で平均正答率が全国平均を上回るものが散見され、顕著に下回るものはどれも知識・技能を問う問題でした。話すこと、聞くことや言語に関する事項では全国を少し上回る良好な結果となっていますが、書くことや言葉の使い方、情報の扱い方に関しては少し下回り課題が見られました。数学では平均正答率の全国との開きにおいて、知識・技能と思考・判断・表現の間で差異は見られませんでした。領域別では数と式、図形の正答率が、データの活用と関数の正答率よりも相対的に高くなっていました。思考・判断・表現の力を問う記述式の問題で、無回答の生徒の率が全国より少し高くなっている問題が数問見られ、解法の手がかりがつかめていない生徒が少し多めであることがわかりました。学習時間、読書量を十分確保し、読解力・説明力を向上させてほしいと思います。

### 国語科より

（全国平均と比べて）

- |                             |         |
|-----------------------------|---------|
| ○必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる | + 4. 7  |
| ○短歌の内容について、描写を基に捉えることができる   | + 5. 3  |
| ○意見と根拠など情報と情報との関係について理解している | - 11. 3 |
| ○表現の技法について理解している            | - 8. 5  |

本校の特徴としては、「話すこと・聞くこと」において必要とされる力が他の領域に比べ、プラスになっています。これは、国語科の学習だけでなく、総合的な学習の時間を通したポスターセッション等、発表する機会を多く設定したことが一つの要因と考えられます。一方、「表現技法」への理解や「情報と情報との関係」を理解する問題において躓きが見られます。今後の授業において、知識の定着、その知識を活用した問題を通してさらなる理解につなげていきたいと考えています。

### 数学科より

（全国平均と比べて）

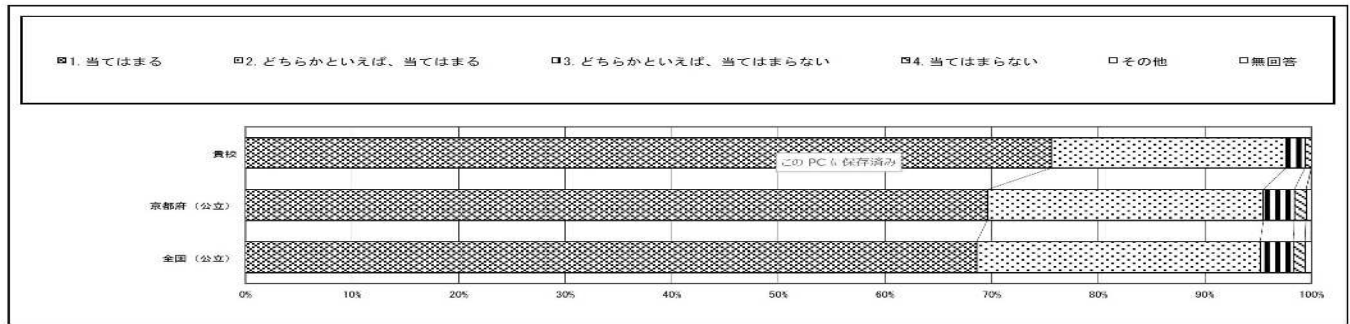
- |   |         |
|---|---------|
| ○問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数・負の数の加法の計算ができるかどうかをみる | + 0. 9  |
| ○総合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明できるかどうかをみる | + 0. 8  |
| ○一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる         | - 12. 0 |
| ○複数の集団のデータ分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる        | - 12. 4 |

正答率は、どの領域も全国平均、京都府平均よりもマイナスになっています。領域や問題形式の違いによる特徴は特にありません。正答数の分布は全国平均に比べ、標準偏差が小さく、第3四分位が平均に比べて小さいことから、高得点層が少なく中得点層に多く集まっています。基礎基本の定着に力を入れ、中低得点層の底上げが必要だと考えます。

生徒質問紙から今年度、特徴的なグラフを示したものを紹介させていただきます。

生徒質問紙から①

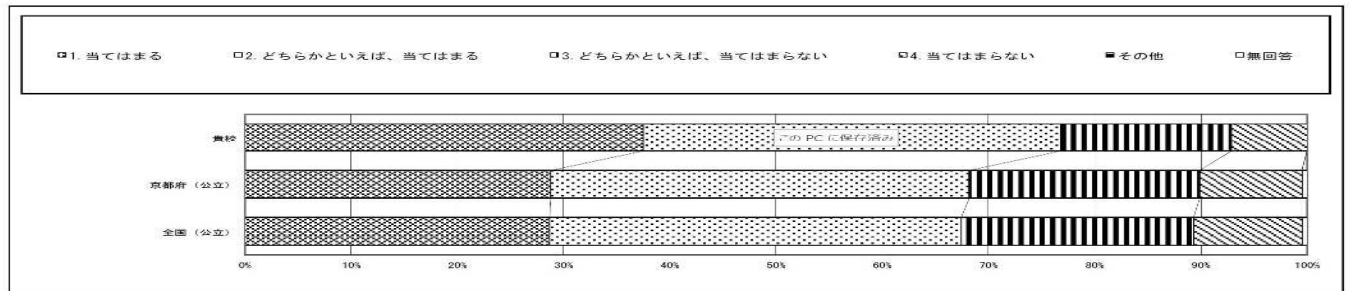
質問番号	質問事項											
(15)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	75.6	22.0	1.8	0.6							0.0	0.0
京都府（公立）	69.6	25.9	2.9	1.1							0.0	0.5
全国（公立）	68.6	26.6	3.1	1.1							0.0	0.6



「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に「当てはまる」と答えた生徒が全国平均よりも 7.0 ポイント高く、「地域や社会のために何かしてみたいと思いますか」という質問に「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒も全国平均よりも 1.9 ポイント高くなっています。また「人が困っているときは、進んで助けていますか。」という質問に「当てはまる」と答えた生徒も全国平均を 3.4 ポイント上回っており、人の役に立つことに喜びを感じられる生徒の割合が多いことが見て取れます。「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問に対して「よくある」と答えた生徒も 49.4%で全国平均を 4.8 ポイント上回っており、家庭で大切にされ心が満たされている生徒が多いことが、公共心の高さとも関連しているのではないかと思います。しかしこの質問に対しては「あまりない」または「全くない」と答えた生徒も 11.9%おり、全国平均を 2.3 ポイント上回っており両極性が見られました。

生徒質問紙から②

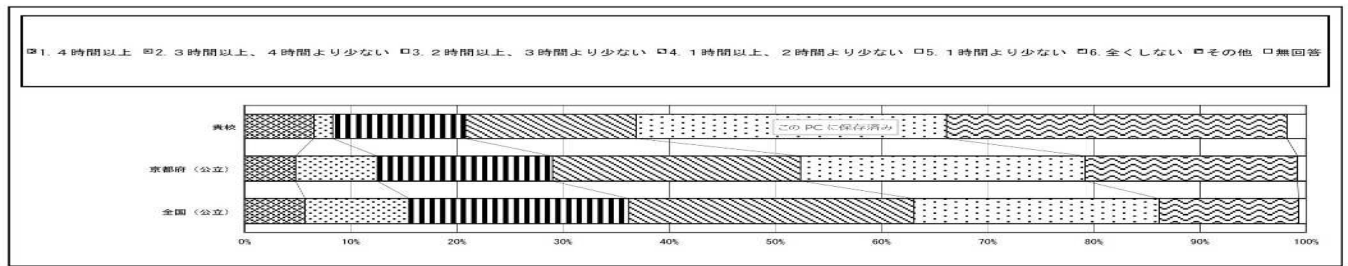
質問番号	質問事項											
(14)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	37.5	39.3	16.1	7.1							0.0	0.0
京都府（公立）	28.8	39.4	21.7	9.6							0.0	0.5
全国（公立）	28.7	38.8	21.9	10.2							0.0	0.5



「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に対して「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は 76.8%で全国平均を 9.3 ポイント上回っています。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に「当てはまる」と答えた生徒も全国平均を 5.8 ポイント上回っており、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に「当てはまる」と答えた生徒が全国平均を 8.9 ポイント上回っている一因になっているのではないかと考えられます。ただ、「友達関係に満足していますか」という質問には「どちらかといえば当てはまらない」、「当てはまらない」と答えた生徒が 13.7%で全国平均を 4.4 ポイント上回っており、友人関係の構築に課題を感じている生徒が少し多い傾向も見受けられます。

生徒質問紙から③

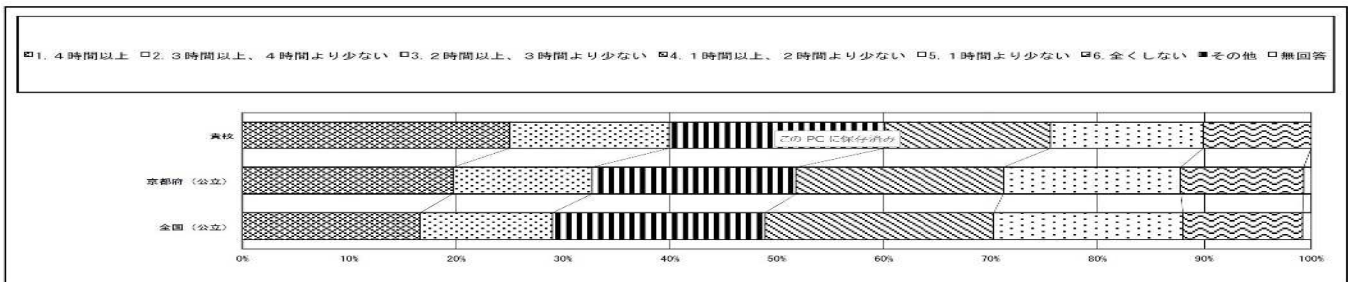
質問番号	質問事項											
(22)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	6.5	1.8	12.5	16.1	29.2	32.1					0.0	1.8
京都府（公立）	4.8	7.7	16.5	23.4	26.8	20.0					0.0	0.8
全国（公立）	5.7	9.8	20.7	26.8	23.1	13.1					0.0	0.7



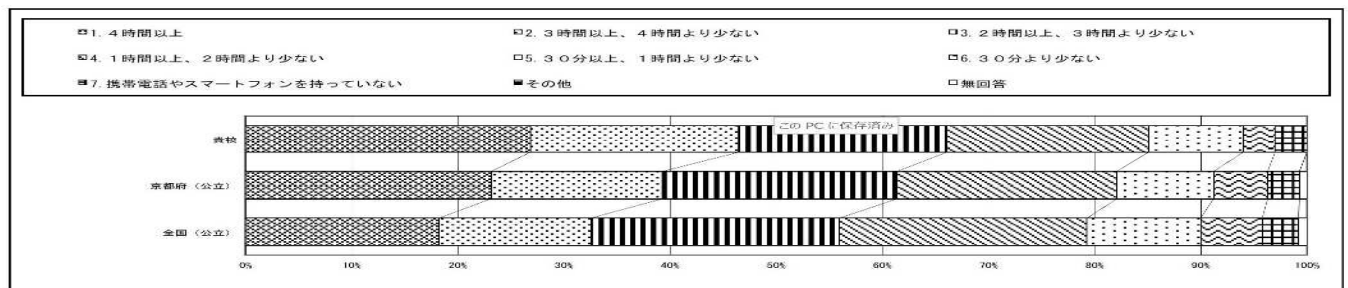
「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して「2時間以上」と答えた生徒は全国平均を15.4ポイント下回り、逆に「全くしない」と答えた生徒が約3人に1人おり、全国平均を19.0ポイント上回っています。平日に関しても同様の傾向が見られ「全くしない」と答えた生徒が16.1%で全国平均を9.5ポイント上回っています。学校を離れると勉強を全くしなかったり、かなり不足している生徒の割合が非常に多いことがわかります。新聞を読む生徒も下回っています。

生徒質問紙から④

質問番号	質問事項											
(5)	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	25.0	14.9	20.2	15.5	14.3	10.1					0.0	0.0
京都府（公立）	19.7	13.0	19.1	19.4	16.6	11.5					0.0	0.7
全国（公立）	16.6	12.4	19.9	21.4	17.7	11.2					0.0	0.8



質問番号	質問事項											
(6)	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	26.8	19.6	19.6	19.0	8.9	3.0	3.0				0.0	0.0
京都府（公立）	23.1	16.1	22.1	20.7	9.1	5.1	3.0				0.0	0.7
全国（公立）	18.2	14.3	23.4	23.3	10.7	5.8	3.4				0.0	0.8

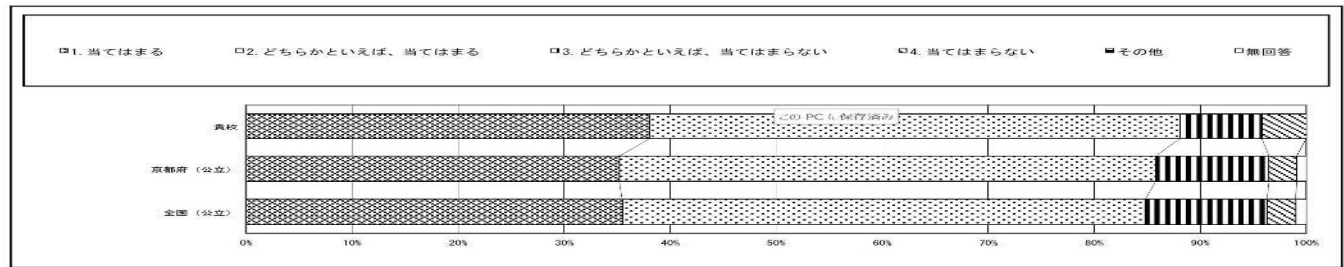


「普段、1日当たりどれくらいの時間ゲームをしますか」という質問に対して「3時間以上」と答えた生徒は39.9%で全国平均を10.9ポイント上回り「普段1日当たりどれくらいの時間SNSや動画視聴をしますか」という質問に対して「3時間以上」と答えた生徒も46.4%で全国平均を13.9ポイント上回っており、学習時間の大幅な不足の原因と考えられます。また、「スマートフォン等の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して「きちんと守っている」と答えた生徒は25.6%で全国平均を8.4ポイント下回っていました。今一度、これらの使い方について話し合っただけだと思います。



生徒質問紙から⑤

質問番号	質問事項											
( 3 6 )	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	38.1	50.0	7.7	4.2							0.0	0.0
京都府（公立）	35.2	50.6	10.7	2.6							0.0	0.9
全国（公立）	35.5	49.4	11.5	2.7							0.0	1.0

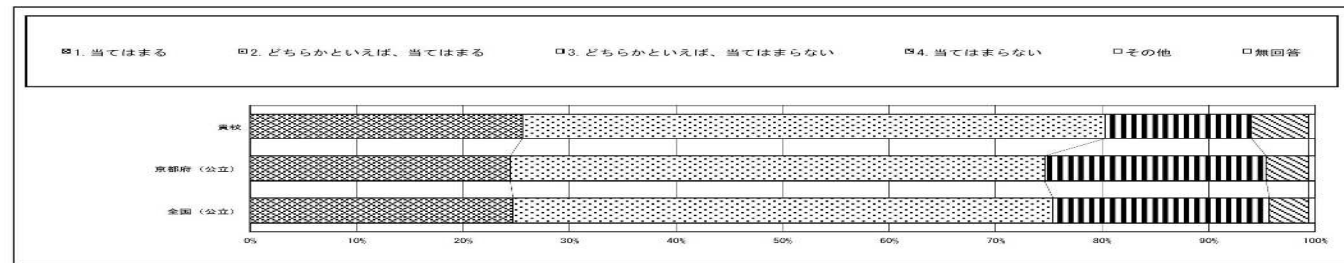


「先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思いますか」という質問に対して「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は88.1%で全国平均を3.2ポイント上回っており、生徒の「わかりたい」という学びに対する前向きな姿勢と、教師の「生徒の力を最大限伸ばしたい」という思いからくる地道な指導がかみ合う割合が、相対的に多いことが表れていると言えます。また、「1、2年生のときに受けた授業は自分にあった教え方、教材、学習時間になっていましたか」という質問に対して「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は82.2%で全国平均を1.3ポイント上回っていました。「学習した内容について、わかった点やわからなかった点を明確にして、次の学習につなげることができていますか」という質問に対して「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は81.0%で、ふりかえりや自己調整の習慣が身に着いた生徒が全国平均を3.1ポイント上回っていました。

一方、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問に対して「どちらかといえば、できていない」と答えた生徒が22.6%で全国平均を4.5ポイント上回っていたり、「ICT機器の活用で、分からないことがあったときにすぐ調べることができる」や「ICT機器の活用で学習内容がよく分かる」等の質問に「あまりそう思わない」または「そう思わない」と答えた生徒の割合がいずれも全国平均より10ポイント程度高くなっており、今後の課題としてあげられます。

生徒質問紙から⑥

質問番号		質問事項											
(31)		1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか											
選択肢		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校		25.6	54.8	13.7	5.4							0.0	0.6
京都府（公立）		24.4	50.1	20.8	4.0							0.0	0.6
全国（公立）		24.7	50.7	20.3	3.7							0.0	0.6

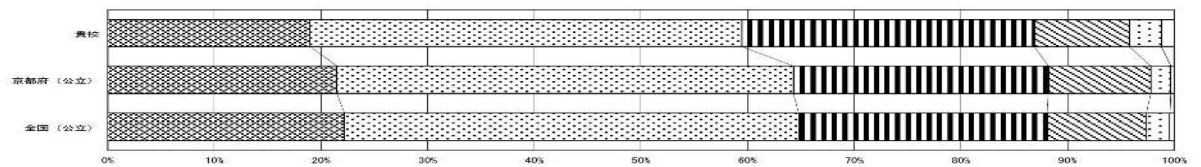


「1、2年のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問に対して「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は80.4%で全国平均を5.0ポイント上回っています。また「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に対しても、「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は85.7%で全国平均を3.5ポイント上回っていました。

生徒質問紙から⑦

質問番号	質問事項											
(29)	1. 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	19.0	40.5	27.4	8.9	3.0						0.0	1.2
京都府（公立）	21.5	42.6	23.9	9.6	1.9						0.0	0.3
全国（公立）	22.2	42.6	23.3	9.3	2.2						0.0	0.4

□1. 発表していた □2. どちらかといえば、発表していた □3. どちらかといえば、発表していなかった □4. 発表していなかった □5. 考えを発表する機会はなかった □その他 □無回答

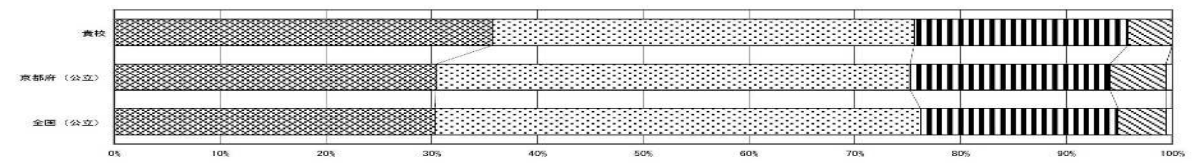


「1、2年のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に対して、「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は59.5%で全国平均を5.3ポイント下回っています。発表内容を充実させるための十分な準備期間と、より効果的な発表手順や話の組立てについての学習機会を増やすことが必要ではないかと考えられます。

生徒質問紙から⑧

質問番号	質問事項											
(17)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	35.7	39.9	20.2	4.2							0.0	0.0
京都府（公立）	30.4	44.9	18.9	5.3							0.0	0.6
全国（公立）	30.3	45.9	18.7	4.5							0.0	0.6

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に対して「当てはまる」と答えた生徒は35.7%で全国平均を5.4ポイント上回っており、意見を異にする他者に対して分断を選ぶのではなく、多様な意見に対して受容し、考えることを楽しめる生徒の割合が多いことを示しています。学校、家庭その他の様々なコミュニティのなかで揉まれ、培われたこの資質は、たくましくかつ寛容性をもって周囲の人とよりよい社会を協働して作っていく素地になると考えられます。多様性が当たり前のこととして受け入れられる人が増えていくことは、自分を含めだれもが生きやすい社会の基盤にもなっています。

今後も、学校では意見交流を楽しめる機会を多く設定していきたいと思います。ご家庭でも様々な話題を取り上げていただき、日々少しずつですが成長を続ける子どもたちの考えや話に耳を傾けていただければ幸いです。